Department of Science and Engineering

研究者紹介 **私の研究**

理工学研究部

科学技術史グループ

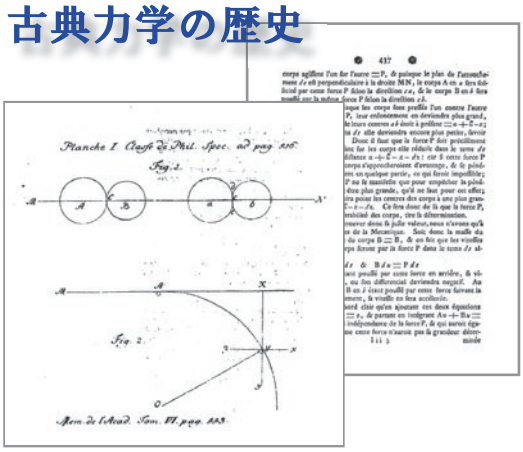
有賀 暢迪（ありが のぶみち） 研究員

『残された史料から科学の形成過程を復元する』

昔の本や論文などを探し出しては読み解き、科学のたどってきた道を再構成して示すのが私の研究です。

もともとは、18 世紀のヨーロッパで力学の理論がどのようにして作られたかを研究していました。科博に来てからは、近現代の日本を舞台にした物理学史や、コンピュータ・シミュレーションの歴史などに、幅広く取り組んでいます。

古典力学の歴史



数学者オイラーの力学論文（1750年）

誰が、どうやって、そんなことを考えたのか？

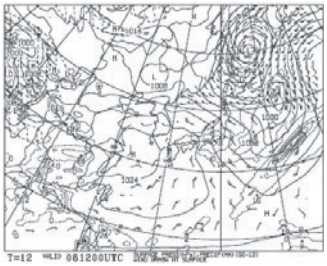
近代日本の物理学史

明治・大正期の物理教育用器械、「ブラマ水圧機模型」

物理学者長岡半太郎の大学時代のノート（明治 17~18 年）

コンピュータによる構造計算が行われた日本初の高層建築、「霞が関ビル」

コンピュータで計算された数値予報天気図



気象庁ホームページより転載（FXFE502, 2014/4/6 0:00 作成）

シミュレーションの歴史

研究員に聞いてみました！

1）専門は何ですか？

科学史です。特に、力学（力と運動の科学）を中心に、物理学の歴史を研究しています。

2）研究者になろうと思ったきっかけは何ですか？

特にありません。とにかく色々なことを知りたいと思って生きてきたところ、気付いたら研究者になっていました。

3）最近の研究活動で、最も興味深かった出来事は何ですか？

明治期のある物理学教科書を調べていたら、「勢の大涅槃」（せいのだいねはん）という言葉が出てきて、何かと思ったらエネルギー保存則のことでした。これに限らず、言葉の使われ方の歴史はとても興味深いです。

4）研究者になりたい方に一言アドバイスを！

自分の興味あるテーマだけに限らない、幅広い視野をぜひ身につけてほしいと思います。

国立科学博物館 理工学研究部

ホームページ http://www.kahaku.go.jp/ の「研究と標本・資料」もご覧下さい。